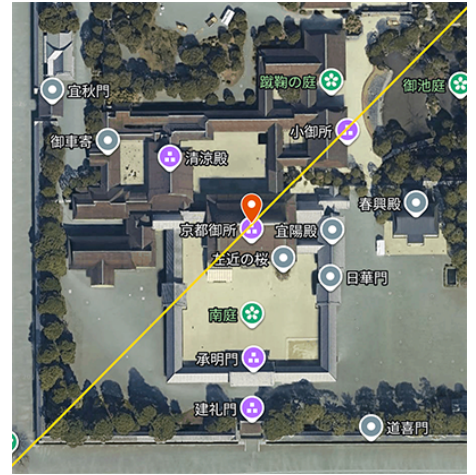


平安京 京都御所(1331～1869 年)

●たしか 15 年以上も前のことだが、まだ張り合わせた大きな地図で、現在の京都御所の鬼門が大朝日岳や大沼に向いていることを知り、京都に行った際に鬼門の猿が辻（囲まれた塀の東北の角）を訪ねてみたことがあった。そして、欠けている角から東北の方角を向いて写真を撮ろうとして、塀の軒下に入らせてもらった。すると、途端にけたたましい非常ベルが鳴り響き、慌てて軒下を離れたが、備え付けてあった二つの監視カメラが動いて私の方を向いてきた。とても恥ずかしい思いをした。しかし、未だ京都御所は大切なものを守っていることがわかり大切な出来事となった。

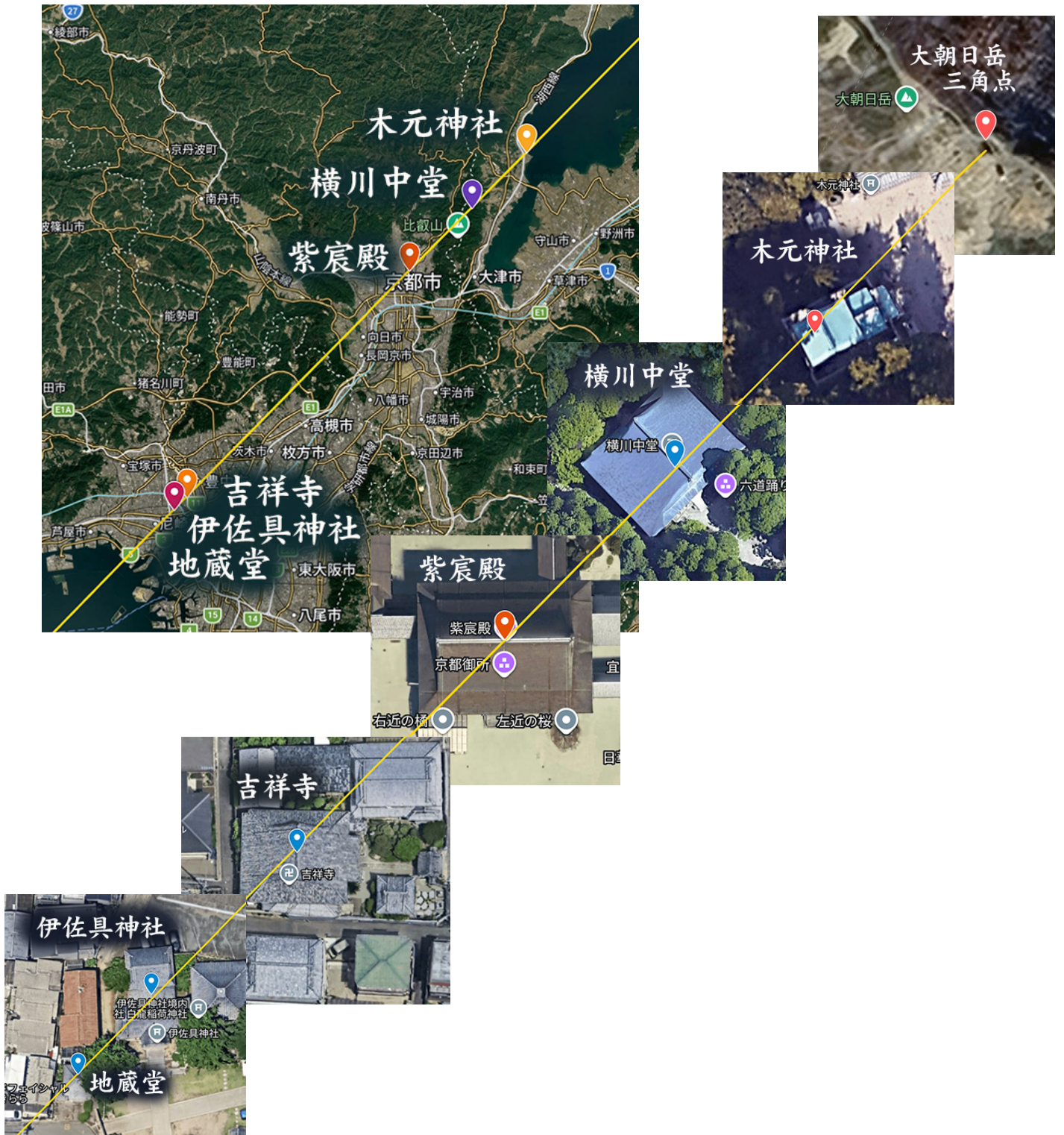
戦国時代以降から江戸末期までの歴史にあまり興味が湧かなかったので、保留にしていたが、各都を調べてきたので調べてみることにした。

現在の京都御所の場所は、1331 年に北朝初代の光厳天皇がここで即位されて以降、1869 年に明治天皇が東京に移られるまでの約 500 年間使用されたい。



大朝日岳





■地蔵堂 → 伊佐具神社 → 吉祥寺 → 紫宸殿 → 横川中堂 → 木元神社 → 大朝日岳山頂三角点

■大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳8年

（679）、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に役行者が参籠修行し開山したという。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を受けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。



大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町立木番外地

- 三処とは、大朝日岳、中岳、西朝日岳ではないかと思われる。
- 出雲口伝では出雲王国の北限が朝日岳だったと伝わっている。

■京都御所紫宸殿

現在の京都御所は、もと里内裏（内裏が火災で焼失した場合などに設けられた臨時の内裏）の一つであった土御門東洞院殿の地である。南北朝時代（14世紀半ば）から北朝側の内裏の所在地として定着し、明治2年（1869年）、明治天皇の東京行幸時まで存続した。明治以降は京都皇宮（きょうとこうぐう）とも称される。最初期の京都御所（南北朝時代の土御門東洞院殿）土御門東洞院殿は、1337年9月26日（建武4年9月2日）に北朝2代光明天皇が居住して以降、明治天皇の東京奠都に至るまで約530年間にわたって使用され続けた内裏である。紫宸殿は御所敷地のかつての内裏の正殿である。天皇の即位、元服、立太子、節会など、最重要の公的儀式が執り行われた建物である。

京都府京都市上京区京都御苑3

■木元神社

御祭神/句句廻馳神

天曆八年（954年）小野道風朝が和邇の湖汀にこの神を祀り、社殿を造営して木之元社と称した。其後寛弘年中恵真僧都開基して、社務宮之坊を建立した、応永年中社務宮之坊が廃頽し、この頃より南浜村の産土神となり、神祇長上ト部兼敬の支配となった。滋賀県大津市和邇南浜 185



■比叡山 延暦寺 横川中堂

比叡山 延暦寺は天台宗の総本山で、伝教大師最澄上人が延暦四年（785年）、山上に一乗止観院を建て、自ら刻まれた薬師如来のご宝前に三つの灯明をかかげ、祈られたときに始まったと言われている。この灯明は”不滅の灯明”として、今なお神秘的な輝きを伝えている。この比叡山延暦寺は、東塔、西塔、横川と三つの地域に分かれており、新西国霊場の横川中堂は、この”三塔”の一番奥になる横川に建てられている。延暦寺横川中堂は、嘉祥元年（848年）、入唐求法の旅から帰国した慈覚大師が建立、聖観音像と毘沙門天像を奉安されたのに始まる。横川中堂は舞台造りの堂々たる建物で、現在のものは昭和十七年の雷火で全焼されたのち再建されたものである。横川にはそのほか、四季講堂や根元如法塔、恵心堂などが点在している。



本尊/聖観世音菩薩

滋賀県大津市阪本町 4225

■龍泉山 吉祥寺

伝説によれば、奈良時代（八世紀）の名僧、行基この地に来たり、椎の木の大きな木を繁れるをみるや、これを伐りて、御堂を建立し、仏像を安置して、吉祥院と名づけ、真言宗なりしが、本願寺の中興蓮如上人のご教化により浄土真宗に転宗せりと伝え聞く。現存する記録によれば、開基は釈智教（俗名橋永久エ門）。宝永七（1710）に本尊阿弥陀如来像を本願寺より受けている。

兵庫県尼崎市椎堂1丁目25-1

■伊佐具神社

主祭神/伊狭城入彦尊

伊佐具神社は尼崎市で唯一の「式内社」です。社殿によれば、神功皇后が筑紫、今の九州においでの時、当社神前で祈誓されたといわれます。それが仲哀天皇9年のことです。また、主祭神の伊狭城入彦尊（いさぎいりひこのみこと）は景行天皇の御子で、知恵と勇気に優れ、兄である日本武尊（やまとたけるのみこと）とともに、父である天皇の命のもと、諸国平定にご尽力され、領地を賜ったと『日本書紀』にもあります。伊佐具神社は往古よりの尼崎の歴史とともに



にある由緒ある古社であると言えます。勇壮な神賑行事に賑わいをみせる例祭をはじめ、四季折々の社頭の様子からも、神代より変わらぬ人々の神社、祭りを大切に思う心が窺えます。

兵庫県尼崎市上坂部3丁目25-18 ※写真は尼崎市ホームページより拝借

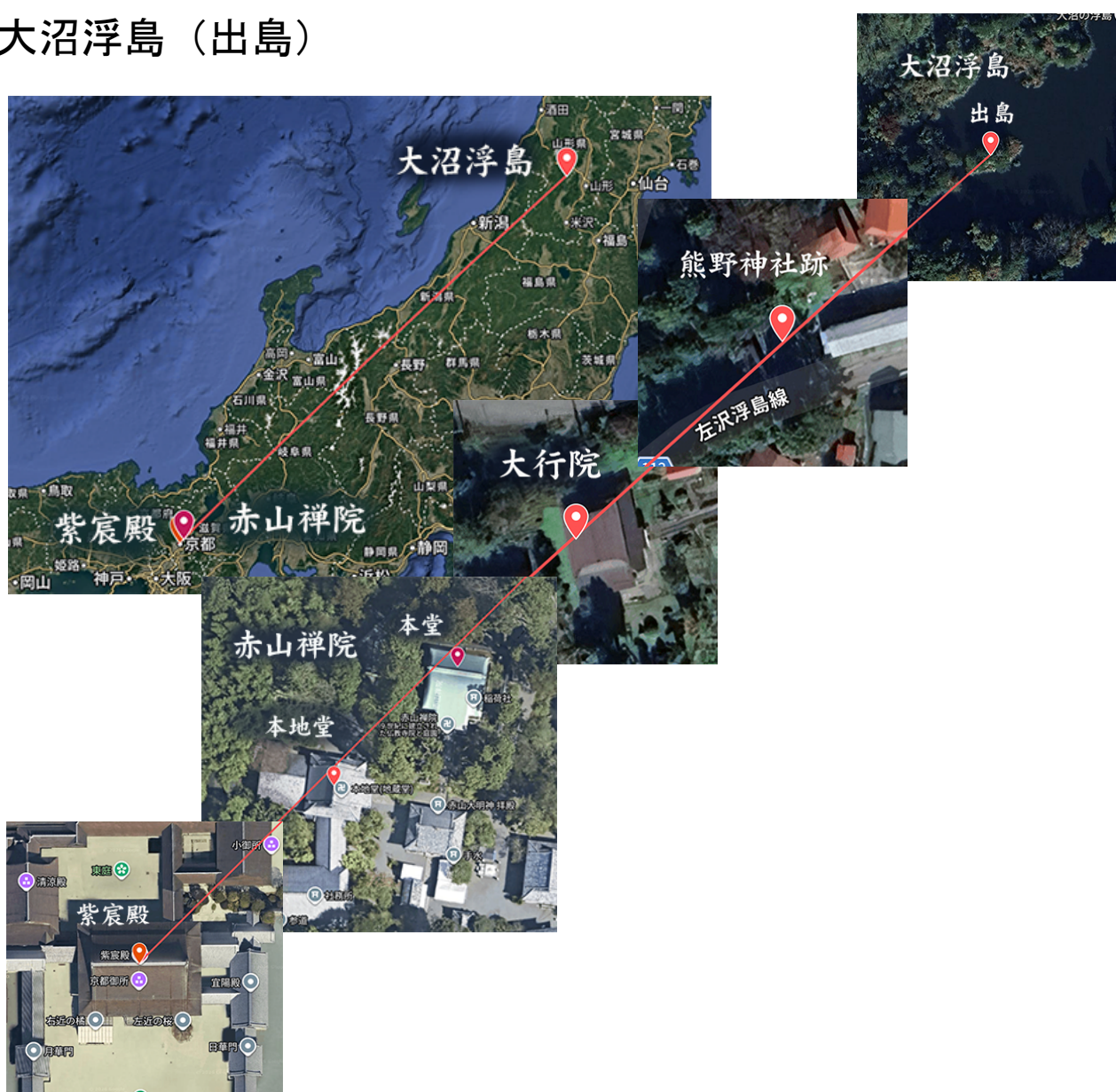
●地藏堂

伊佐具神社境内の西方に隣接して仏堂があります。案内板にはこのお堂の仏像は「もと伊佐具神社境内の稲荷社に奉祀されていたとあり、白龍稲荷神社の建物が福円山浄徳寺だった頃のことを指しているのでしょう。観音菩薩を安置しているようです。浄徳寺の仏像はこちらへ、そして本社社殿に祀られていた稲荷神は浄徳寺のお堂へ、と明治年間の宗教政策により玉突きで神仏が遷ったことが伺えます。

由緒/このお社の御本尊はもと伊佐具神社境内の稲荷社に奉祀されていましたが明治の神仏分離によりこの地に移転されました。神呪寺に属す福円山浄徳寺と称し靈験あらたかな観音様で信仰心の篤い人達により維持されています。証として元禄拾貳年正月吉日刻印の鰐口を伊佐具神社で保存しています。霊元あらたかなお地蔵様も日夜参詣が絶えません。

●延暦寺が京都御所の鬼門の護りなことは有名だが、元の平安京大極殿の鬼門の護りは早良親王の崇道神社である。1331年北朝初代の光厳天皇の時代に、比叡山と大朝日岳をつなぐ正確な位置に御所を移動させたと思われる。裏鬼門の伊佐具神社の伊狭城入彦尊は日本武尊の弟。勇ましい武神を置いたのだろう。

大沼浮島（出島）



■紫宸殿 → 赤山禅院本地堂 → 赤山禅院本堂 → 大行院（社務所）→ 熊野神社跡 → 大沼浮島出島

■赤山禅院

赤山禅院(せきざんぜんいん)は、平安時代の仁和4年(888年)に、第三世天台座主円仁の遺命によって創建された、天台宗総本山延暦寺の塔頭のひとつです。

慈覚大師円仁(794年~864年)は、838年、遣唐使船で唐に渡り、苦勞の末に天台教学を納めました。その行程を守護した赤山大明神に感謝し、赤山禅院を建立することを誓ったとされます。日本に戻った円仁は天台密教の基礎を築きましたが、赤山禅院の建立は果たせませんでした。その遺命により、第四世天台座主安慧(あんね)が赤山禅院を創建したと伝えられています。

本尊の赤山大明神は、唐の赤山にあった泰山府君を勧請したものです。泰山府君は、中国五岳(五名山)の中でも筆頭とされる東岳・泰山(とうがく・たいざん)の神であり、日本では、陰陽道の祖神(おやがみ)になりました。赤山禅院は、平安京の東北にあり、表鬼門に当たることから、赤山大明神は、皇城の表鬼門の鎮守としてまつられました。以来、皇室から信仰され、修学院離宮の造営で知られる後水尾天皇(1596~1680)が離宮へ行幸された際、社殿の修築と「赤山大明神」の勅額を賜っています。現在も方除けのお寺として、広く信仰を集めている由縁です。

京都府京都市左京区修学院開根坊町 18

■大沼浮島(役の小角・弁財天)

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社(祭神/宇迦之御魂神)の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』(1505年)によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳9年(681)役の小角が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川(朝日町大谷)のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当(大行院)とし朝日岳修験が行われた。739年には行基が訪れ浮島66個に国の名前を付けた。建久4年(1193)には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。 山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。出雲族東王家の富家の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現(弁財天)」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730年「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天(瀬織津姫)から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福が連れてきた海童たち秦族は蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島



は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島（弁天島）」（写真）が起点となっている。

■大行院

別当大行院（大沼大坊）は役の証覚の弟子覚道の直系であり、現当主の最上氏は54代目を数えます。浮島稲荷神社は、源家、徳川家、大江家、最上家など時の権力者の尊崇厚く祈願所として加護を受けてきたことから、多くの貴重な文書が所蔵されています。『大谷郷』より抜粋

浮嶋稲荷神社及び別当大行院略年表

年号	西暦	事項
白鳳 9年 (天武)	680	役の証覚大師が天武帝の命を受け山岳修行中、大沼浮島を発見。弟子覚道をこの地にとどめ草創したと伝える。
和銅 元年	708	覚道が浮嶋宮を建て大沼大坊（後の大行院）の開祖となる。
天平 11年	739	僧行基大沼を訪れ浮島の島数六十六を日本国数にたとえ国名を付けた。
長徳 元年	995	藤原実方朝臣、浮島を拝し二首の歌を詠んだと伝える。
康平 5年	1062	源頼義・源義家(1091)には調伏の祈禱を行う。
建久 4年	1193	大江広元のすすめにより源頼朝の祈願所として本殿を再建する。
建武 2年	1335	寒河江城主5代大江親広の孫顯広、大沼大坊に入り雄尊と号し28代を相続する。これより姓を大江とする。
応永 20年	1413	寒河江城主12代大江為広、浮嶋宮本社再建する。

●円仁の赤山禅院も表鬼門の護りだった。その先には大沼浮島出島とつながる。

●さて、私のルール誤差 5m 以内を考慮すればギリギリセーフだが、赤山禅院のラインの位置がお堂の真ん中がないのが気になった。これまで古い祭祀線ばかりを調べていたのでうっかりしていたが、この時代の大沼は出島よりも浮嶋稲荷神社が聖地となっている。さっそく浮嶋稲荷神社と紫宸殿をつないでみた。

すると…

↓

●青線が浮嶋稲荷神社からのライン



■紫宸殿 → 赤山禅院本地堂 → 赤山禅院本堂 → 浮嶋稲荷神社

●見事に本地堂と本堂の屋根のほぼ真ん中を貫いた!

参考

浮嶋稲荷神社の位置と歴史



■ 浮嶋稲荷神社 ←←← 18.354km ←←← 大朝日岳山頂 →→ 18.354km →→ 大沼出島

● 大朝日岳山頂から大沼の出島と同じ距離に浮嶋稲荷神社を建立してある。大朝日岳のご神気を神社に引き寄せるための祭祀線。おそらく本当はあと 5m 前に建てて出島の中央と同距離にしたかったのだと思うが、社殿の前は切り立った崖なのでこれでギリギリだったのだと思われる。

まとめ

● 円仁や弟子の安慧は山形市の立石寺や朝日町の豊龍神社、東善寺瑠璃殿などと結んで平安京の鬼門を強固にしている。（詳しくは「東善寺瑠璃殿(新宿薬師堂)の役わり」や「平安時代」のカテゴリーを）そして比叡山も円仁や安慧により大朝日岳や大沼と結ばれていた。

しかし、円仁や安慧が比叡山に横川中堂や赤山禅院を建てたのは、京都御所が使われ始めた 1331 年の 500 年も前である。前身の土御門東洞院殿とはどういう存在だったのだろうか。

調べてみると、土御門大路に面した土御門殿など藤原氏の公家邸宅があったとある。内裏の火災などにより天皇が公家の邸宅に移り住む里内裏として頻繁に使われるようになったのは 1086 年頃からとある。それでも 200 年も差がある。「土御門」が付くので安倍晴明ゆかりの地なのだろうか。晴明が亡くなったのは 1005 年。

大朝日岳・大沼とつながるこの絶妙な聖地を、円仁・安慧がなんらかの形で残しておき、それを後の安倍晴明が里内裏になるよう仕向けたのだろうか？